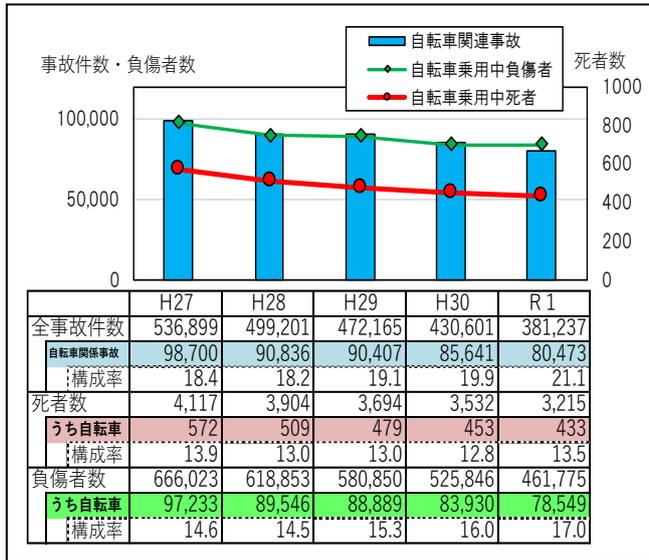


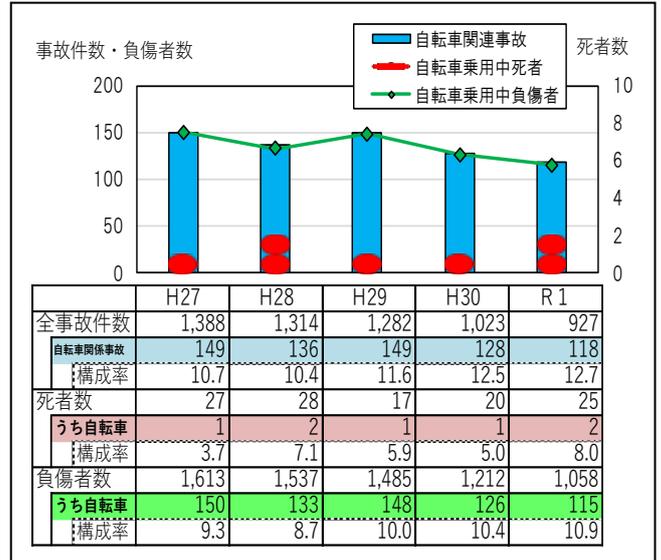
自転車関係事故の発生状況と自転車ヘルメット着用の重要性について

1 自転車関係事故の発生状況（平成27年～令和元年）

(1) 全国



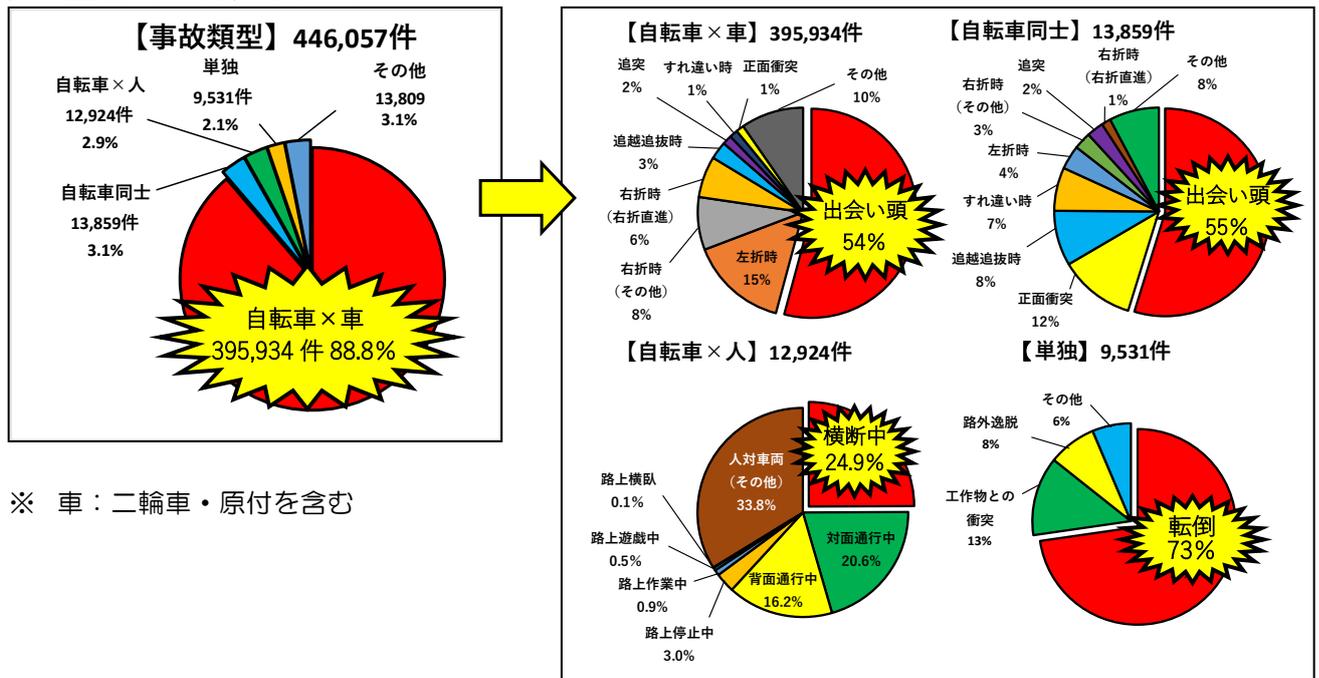
(2) 県内



- **全国**では、自転車関係事故の発生件数は、年々減少していますが、5年間で全事故が29.0%減少したのに対し、自転車関係事故は18.5%の減少にとどまっています。また、**全事故に占める構成率は約2割で増加の一途**をたどっています。
- **県内**では、自転車関係事故の発生件数は、H29に前年より増加したものの、減少傾向で推移しています。しかしながら、5年間で全事故が33.2%減少したのに対し、自転車関係事故は21.0%の減少にとどまっています。また、**全事故に占める構成率は約1割強で増加の一途**をたどっています。

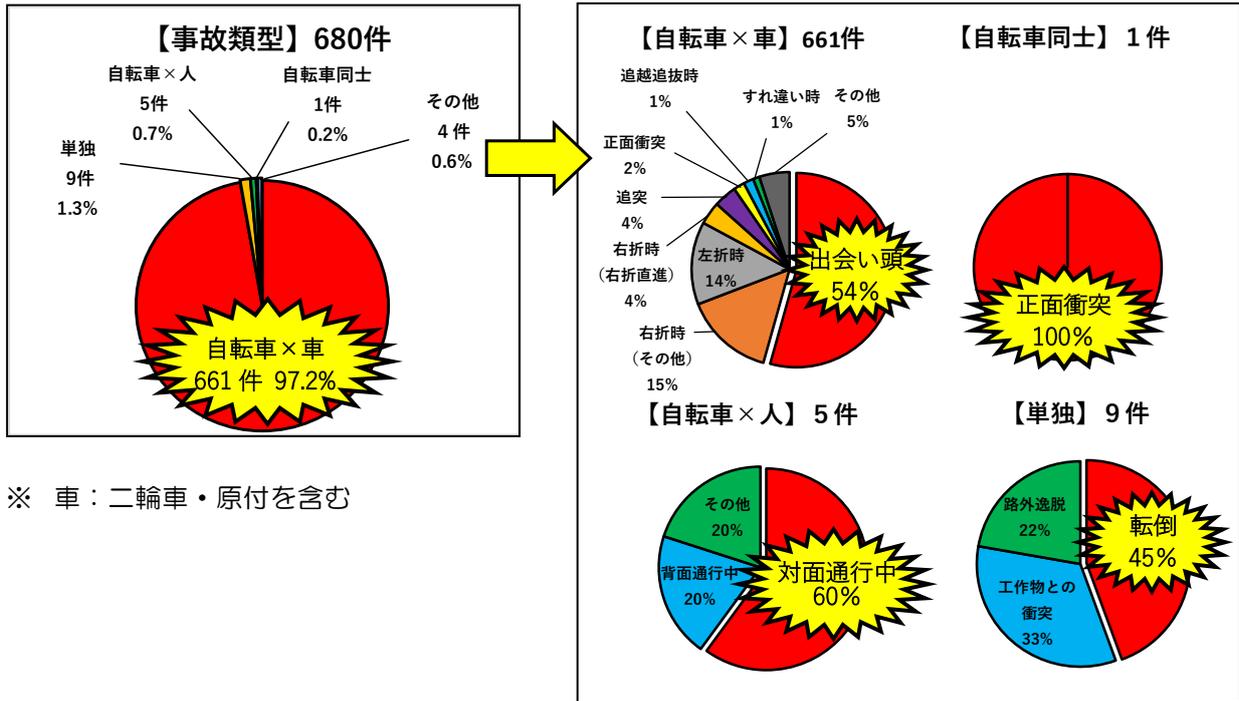
2 自転車関係事故の事故類型・態様別の発生状況（平成27年～令和元年）

(1) 全国（446,057件）



※ 車：二輪車・原付を含む

(2) 県内 (680件)

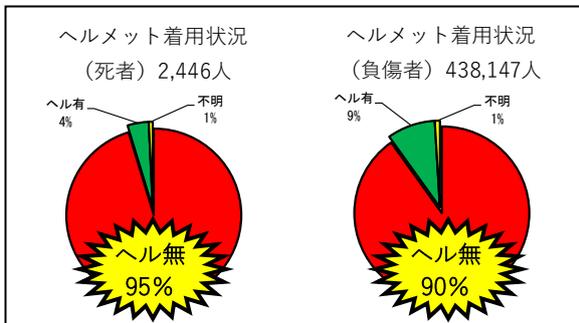


※ 車：二輪車・原付を含む

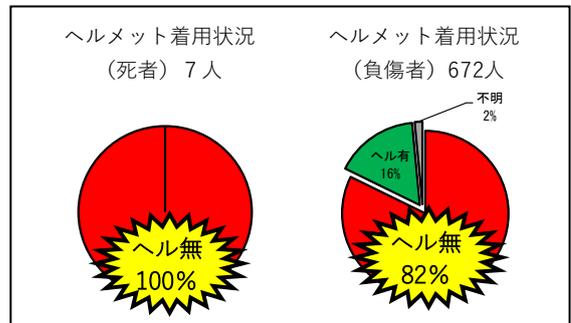
- **事故類型別**では、全国、県内とも**自転車対車の事故が大半**を占めています。
- **自転車×車の事故**では、全国・県内とも**出会い頭事故が最も多く 5割以上**を占めています。
- **自転車単独の事故**では、全国・県内とも**転倒事故が最も多く**なっています。

3 自転車乗用中死傷者のヘルメット着用の有無 (平成27年～令和元年)

(1) 全国



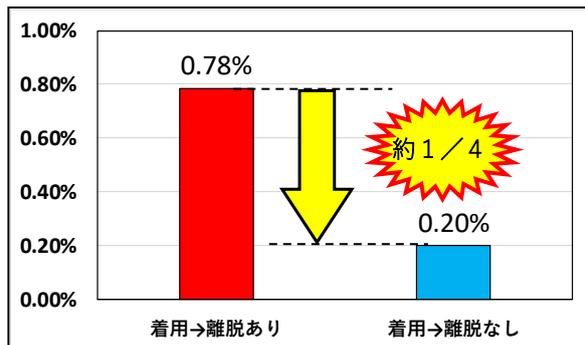
(2) 県内



- **全国・県内**ともに、自転車事故により**死亡・負傷した方の多くがヘルメット未着用**でした。
- **県内**では自転車事故により7人の方が亡くなっていますが、**すべてヘルメット未着用**でした。

4 自転車乗用中死傷者のヘルメット離脱状況別 (平成27年～令和元年 全国)

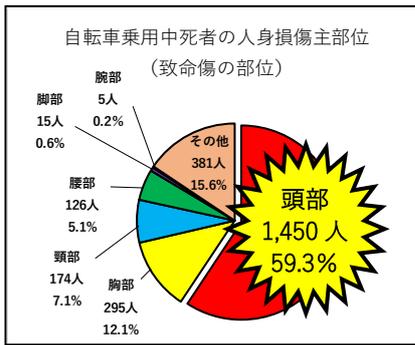
	死傷者	死者	致死率
離脱あり	3,313	26	0.78%
離脱なし	34,676	69	0.20%



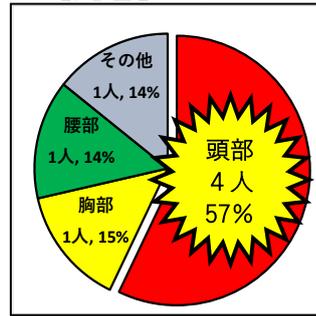
- **全国**では、自転車乗用中の事故で**ヘルメットを正しく着用**することで**頭部損傷による死者の割合は約4分の1**まで減らすことができます。
- **県内**では、自転車乗用中の事故で**ヘルメット着用中の死者はなし**でした。

5 自転車乗用中死者等の損傷主部位の状況（平成27年～令和元年）

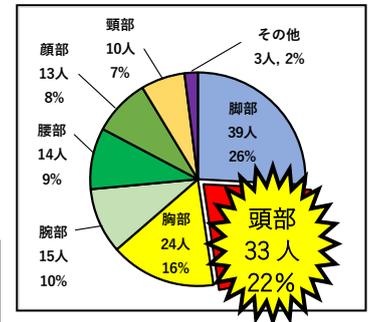
(1) 全国（自転車乗用中死者）2,446人 (2) 県内（自転車乗用中死者・重傷者）



【死者】7人



【重傷者】151人



- 自転車事故での**死者の損傷主部位**は全国・県内とも**頭部が最も多く5割以上**を占めています。
- **県内の重傷者**では、脚部が最も多く、**次いで頭部が多く**なっています。

【参考】自転車ヘルメットの着用実験（JAF ユーザーテスト：自転車の単独・転倒事故の危険性）

	①	②	③
テスト条件	ヘルメットの誤った着用 (あごひもを締めない状態)	子供の転倒 (ヘルメットあり)	子供の転倒 (ヘルメットなし)
テスト内容	男子学生がヘルメットをあごひもを締めない状態で障害物を乗り越えた際の危険性を検証	自転車で乗車し停止中に転倒した際の頭部損傷基準値（HIC）を検証	
テスト結果	前輪が縁石を乗り越える衝撃でヘルメットが脱落し、身体を自転車で打ちつけた後、頭部から地面に落下	<p style="text-align: center;">HIC 288 約3倍 HIC 888</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児では、HICが570以上の場合、頭蓋骨骨折となる可能性がある。 ○ HICが700～2,500になると死亡する可能性がある 	

※ HIC～頭部損傷基準値（衝突や転倒による衝撃が脳に及ぼす影響度を示す目安）

【参考】頭蓋骨骨折の予防効果シミュレーション（協力：（独）産業技術総合研究所・金沢大学・（株）オージーケーカブト）

実験条件	転倒状況	頭蓋骨にかかる応力（※）分布（側面から見た場合）
幼児2人同乗専用自転車 (チャイルドシートハイバック) + ヘルメット装着	自転車が横に横転した際、肩部分のハイバックが地面に接触し、衝撃を吸収し、遅れて頭部が地面に接触。その際もヘルメットが衝撃を吸収。	比較的低い衝撃力が、接触した部分を中心とした限られたエリアで作用するとどまった。 2.7 Mpa以上で骨折の可能性が極めて高くなる
一般軽快車 (チャイルドシートハイバック無) + ヘルメット未装着	自転車が横に横転した際、肩から側頭部が地面に接触し、衝撃は一切緩和されない。さらに、重量によって加速度を増した状態で頭部が接触。	頭蓋骨骨折を起こすに十分な衝撃力が広い範囲にわたって作用している。 応力 (Mpa)

※ 応力とは、転倒時の加速度や角度、接触する物質の硬度などを総合的に加味して解析される「損傷作用を及ぼす力の総和」で、シミュレーション結果は頭蓋骨骨折にかかる力の強さと作用が及び範囲を表している。

【参考】自転車ヘルメットの着用率調査結果（自転車ヘルメット委員会調査）

順位	都道府県	着用率	順位	都道府県	着用率	順位	都道府県	着用率
1	愛媛	29%	17	山梨・富山・徳島	12%	38	大阪・京都・埼玉	6%
2	長崎	26%	20	愛知・石川・大分	11%	43	千葉・広島	5%
3	鳥取	18%		46		和歌山	4%	
4	長野・山口	17%	25	秋田・岩手・高知	10%	47	北海道	2%
6	群馬	16%		福島・宮城				
7	沖縄・岐阜・山形	15%	33	香川・神奈川・新潟	9%			
10	佐賀・静岡・栃木	14%		三重				
13	島根・茨城・熊本 鹿児島	13%	37	兵庫	8%	全国平均	-	11.2%

※ 調査対象：○月に1回以上自転車に乗る1～89歳 調査方法：インターネット
○各都道府県で100人以上、全国で9,971人のデータ

【自転車利用者へのアドバイス】

- 自転車乗用中の事故では、**交差点における出会い頭事故等の発生が多い**ことから、交差点では信号機や標識、他の車両等を見落とさないよう**安全確認**を確実にしましょう。
- 自転車乗用中の事故では、**頭部損傷によって命を落とすリスクが高い**ことから、頭部を保護する**自転車ヘルメットの着用**を心がけましょう。なお、**ヘルメット着用時はあごひもを確実に**しましょう。